

令和5年12月1日をもちまして  
大阪市立総合医療センターは  
開院30周年となりました。

1993-2023

30 years of Osaka City General Hospital



三寒四温の言葉通り冬が行き戻りしている昨今ですが、地域医療機関の先生方は、いかがお過ごしでしょうか。

当院も昨年12月1日で開院30年が経ち、当院に求められる医療機能は大きく変遷し、本年度は新たな取り組みにチャレンジしていきたいと思っております。

循環器センターは、これまで心筋冷凍焼灼術(クライオアブレーション)、経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)、大阪心不全地域医療連携会、経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)、僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療(MitraClip)、卵円孔開存閉鎖術、補助循環用ポンプカテーテル(インペラ IMPELLA)、低侵襲手術(MICS)、ロボット支援下心臓手術など超高齢化、低侵襲治療などの時代のニーズに迅速に対応できるよう心がけてきました。

昨年は、新たに透析患者の大動脈弁狭窄症のTAVIや虚血評価目的でのFFR(冠血流予備量比)-CTが導入されました。さらにエキシマレーザーの導入によりペースメーカーリード抜去や多量の血栓を含む急性心筋梗塞病変やステント再狭窄病変に対して心臓カテーテル治療が可能となり、良好な成績を収めています。今回のVol.63は、2023年における循環器センターの実績をご案内いたします。

今後も、これまで同様地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対しても最先端の循環器医療を身近に提供できるよう、なお一層努力したいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

循環器センターのHP (<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>) も是非閲覧ください。

大阪市立総合医療センター 副院長 循環器センター長 循環器内科部長  
成子 隆彦

# 特集：循環器センター 2023年を振り返って

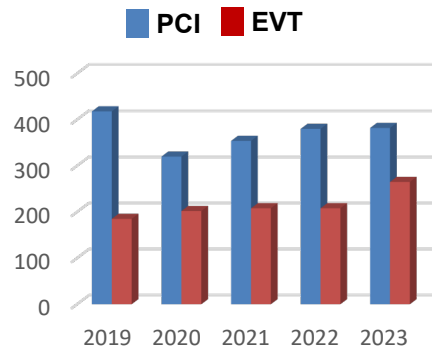
## 循環器内科の2023年の実績

成子隆彦がセンター長として循環器センターを運営しています。ようやくコロナ感染症が5類となり、昨年件数が減少していた部門はやや回復傾向です。

今後も地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対してもレベルの高い医療を提供できるよう、なお一層努力したいと思っております。

### 心臓カテーテル部門

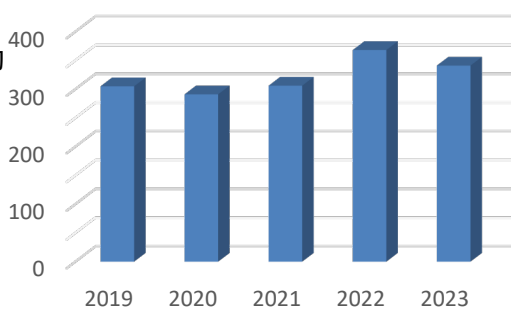
成子、松本亮、仲川、齋藤、加島、吉井が中心となって行った心臓カテーテル治療（PCI）は、コロナ禍で減少したものの、徐々に増加、下肢治療（EVT）は引き続き増加傾向です。虚血評価目的のFFR（冠血流予備量比）を86例、心筋生検を55例施行しています。2016年4月より開始しました経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）58例施行しています。閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）を5例施行しています。また2021年7月から開始した僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（MitraClip）12例、同年8月から開始した卵円孔開存閉鎖術は10例施行し、それぞれ良好な成績を収めています。



### 不整脈治療部門

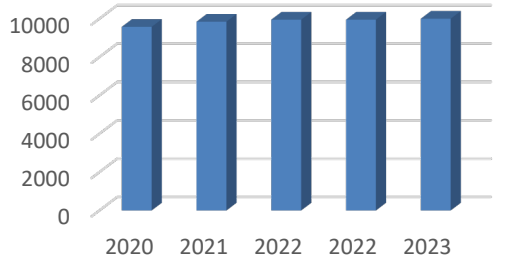
占野、松尾、松本直己が中心となりアブレーション治療の件数は341例で昨年より減少しましたが、持続性心房細動に対する冷凍凝固アブレーションの適応追加に伴い、初回治療における冷凍凝固アブレーションの割合が56%と半数以上となりました。デバイス治療は、ペースメーカ植込み後の患者様の心機能低下を減らすべく、2019年より刺激伝導系ペーシング(左脚領域ペーシング)を行っております。2020年4月から開始した左心耳閉鎖術は4例施行、昨年からはエキシマレーザーを用いたペースメーカリード抜去を開始しています。実績の詳細は、別紙をご覧ください。

### アブレーション治療



### 心臓超音波検査部門

阿部、松村と生理検査技師が中心となって頑張ってくれました。コロナ感染症もようやく落ち着き、心臓超音波検査数は、10608例まで増加、経食道エコー検査365例となっています。弁膜症については、他のどの施設よりも精度の高い診断を行っていると思っております。



## 循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	仲川	成子
			松本直己 (ペースメーカ)		
午後	阿部	松村			成子
	占野 (ペースメーカ)				松尾

### 地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本 亮
					松尾 (不整脈)
午後		齋藤 (末梢動脈)	占野 (不整脈)	仲川 (肥大型心筋症)	松本 亮 (TAVI)
				加島/吉井 (肺高血圧)	

# 心臓血管外科の2023年の実績

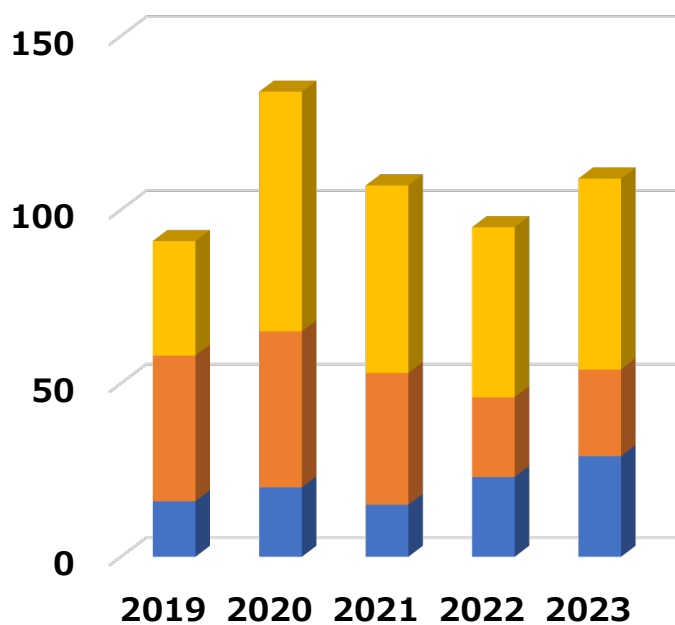
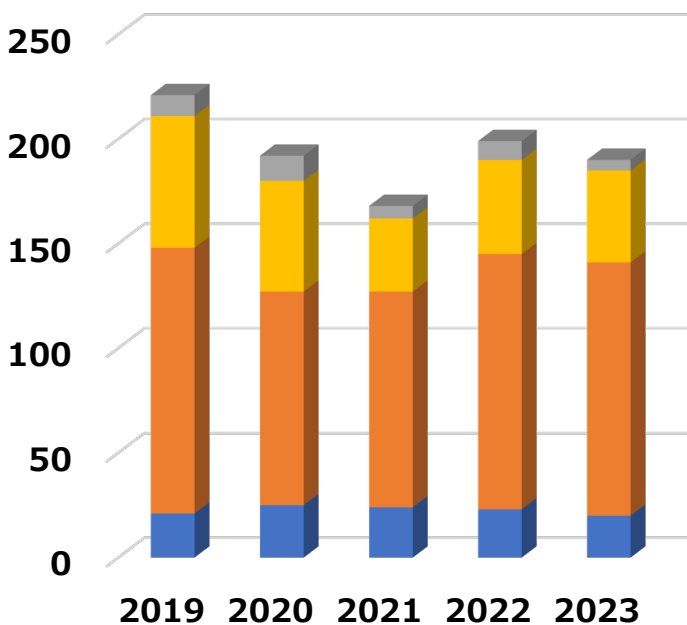
2020年に始まったCOVID-19の流行が落ち着き、2023年は当院の診療体制がほぼCOVID-19流行前に戻りました。緊急手術も以前通りに受け入れることができるようになりました。

COVID-19診療の影響により2020年以降は手術症例数が減少していましたが、2022年に心臓大血管手術件数が回復傾向に転じました。2023年は心臓大血管手術件数は前年とほぼ横ばいでありましたが、手術件数の減少傾向が続いていた末梢血管手術件数が2022年より増加致しました。

2023年も当院の方針の一つである低侵襲、小切開手術を継続しています。心臓手術ではロボット支援下心臓手術は中断しておりますが、MICS(低侵襲心臓手術)を継続し、僧帽弁疾患を中心にMICSを施行しています。末梢血管においては腹部大動脈瘤手術が増加しましたが、可能な症例ではステントグラフト内挿術を行っています。また下肢静脈瘤に対してもより低侵襲な血管内塞栓術(グルー療法)を開始し、下肢静脈瘤手術件数も増加しました。

### 最近5年間の心臓大血管手術数

### 最近5年間の末梢血管手術数



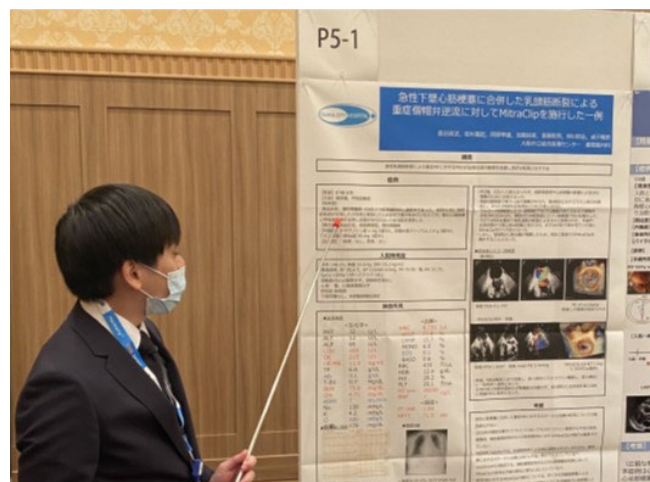
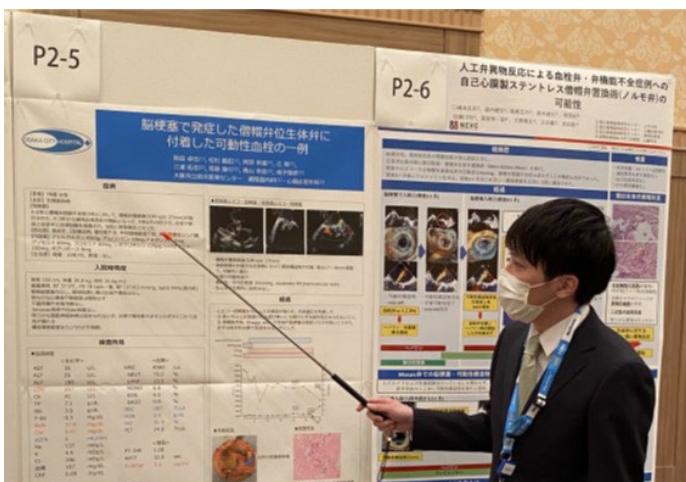
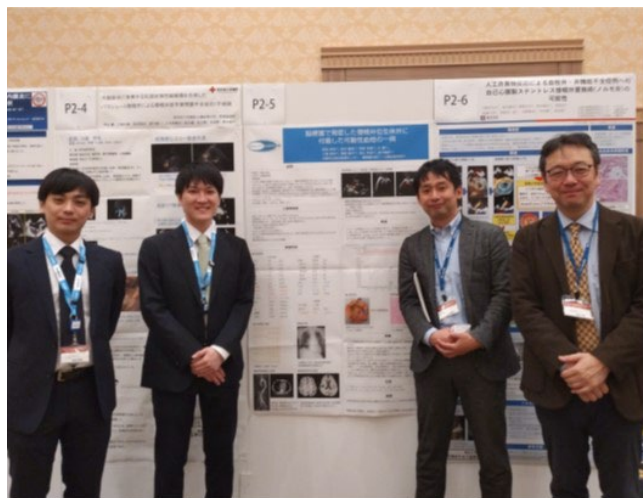
- CABG
- 弁膜症
- 大血管
- その他
- その他の末梢血管
- 腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤ステントグラフト等
- 腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤人工血管置換

## 心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	岸本	阪口	初診外来 (交代制)	尾藤
午後	青山	岸本	阪口	再診 (交代制)	尾藤

# 今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないよう力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行っています。若い医師にも世界へ羽ばたいてもらうべく、できるだけ発表の機会を持ってもらうようサポートしています。左上の写真は下肢救済学会での吉井医師の発表姿です。残りの3枚は日本弁膜症学会中の写真です。左下、右下はそれぞれ岡田医師、島田医師の同学会での発表姿です。これらの研鑽を通じて優秀な医師が育ち、地域医療へ還元することができればこれに勝る喜びはありません。どうぞ応援いただきますようお願い申し上げます。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受け取ることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。